

9 推進協議会の取り組み

(1) 海洋プラスチックごみ問題への取り組み

PETボトルが海や川に流出し、マイクロプラスチック（以下、MP）の発生源になっているというイメージが広がっている一方で、PETボトルは他のプラスチックと比較してそう簡単にはMPにならないとの仮説を検証するため、PETボトルの劣化の研究をマテリアライフ学会の有識者の方々としています。

荒川河川敷から回収されたPETボトルを用いて、金沢大学比江嶋教授らが「屋外環境に長期間晒されたPETボトルの劣化状態の評価」を行い、2025年9月18日開催の第74回高分子討論会（関西大学千里山キャンパス）で発表しました。

発表の内容は、以下の通り。

- ・PETボトルの屋外暴露および促進暴露試験により、劣化挙動を明らかにした。
- ・加水分解および光反応により、PET樹脂の分子鎖の切断が生じるが、一部架橋反応も進行することが示唆された。
- ・PET樹脂の数平均分子量 M_n より、屋外での等価暴露時間を見積もり、力学特性や表面状態とよい相関があることが分かった。

・荒川河川敷から回収したPETボトルは、製造から30年近く経過したものでも、等価暴露時間で1年程度であり、あまり劣化していないことから、MP生成の可能性は低いと考えられる。

今後もさらに研究を進め、論文発表などを通して、海洋中のMPはPETボトル由来である可能性が低いことをアピールしていきたいと思っています。

表5. 荒川河川敷にて回収されたPETボトル

	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
Appearance					
Produced	before 1993	before 1998	1996-1998	before 2001	before 2001
M_n (inside/outside)	6,754/4,792	6,328/4,477	6,977/5,270	7,807/5,506	7,750/6,063
M_w/M_n (inside/outside)	2.67/2.85	2.71/3.07	2.59/2.80	2.45/2.68	2.84/2.88

(2) 再生PET樹脂の第三者認証制度始まる

食品衛生法の改正（2020年6月）により、PL（ポジティブリスト）制度が導入され、PL制度に関しては、5年間の経過措置期間を経て2025年6月より完全施行されました。

再生樹脂の使用に関しては、以前までのガイドラインで定められていた「照会制度」などが廃止され、新たに2024年3月28日に「食品用器具及び容器包装の製造に用いる合成樹脂の原材料としてのリサイクル材料の使用に関する指針」（新ガイドライン）が示されました。

推進協議会では、再生樹脂の新たな認証制度作り等を検討してきましたが、この度（一財）化学研究評価機構（JCII）高分子試験・評価センターにおいて、「食品接触材料用リサイクル材料」の第三者認証制度を開始しました。

この認証制度は、「新ガイドライン」の要件に基づいて策定した認証規格の要求事項を満たす「食品接触材料用リサイクル材料」に認証書を付与し、その安全性を確保し、リサイクラーが製造する「食品接触材料用リサイクル材料」の信頼性を確保することができます。

推進協議会では、この認証制度における運営委員会に参画し、支援していきます。



「リサイクルプラスチック材料認証業務」のWebサイト

ステークホルダーからのご意見



JCII高分子試験・評価センター
常務理事・センター長
荒川 一聡 氏

JCIIでは、高分子試験・評価センターにおいて、食品衛生法の登録検査機関として合成樹脂製の器具及び容器包装の検査、貴協議会の「指定PETボトルの自主設計ガイドライン」に基づく再生PETの評価を行ってまいりました。また、食品用器具・容器包装に関するポジティブリスト（国PL）制度化を含む食品衛生法が改正されたことから、食品接触材料安全センターを設立し、これまで業界として自主的に取り組んできた確認証明制度等の事業を引継ぎました。

再生プラスチック材料に関する国内外の動向も踏まえ、食品接触材に用いる再生プラスチック材料に対する製品認証を開始いたしましたが、JCIIでは本製品認証制度とともに国PLへの適合確認書の運用を行い、食品接触材のサプライチェーン全体の安全性と信頼性の向上に貢献してまいりたいと考えております。

(3) 情報発信・普及啓発に向けての多様な取り組みを推進

「PETボトルリサイクル年次報告書2024」記者説明会の開催

「PETボトルリサイクル年次報告書2024」の発行に合わせ、経団連会館（東京都千代田区）にて記者説明会を開催しました。24社28名のメディア関係者が出席し、2023年度活動内容、PETボトルリサイクルの現状や課題、今後の展望などについての報告を行いました。



「PETボトルリサイクル年次報告書」の記者説明会
(2024年11月20日)

東京都中央区「こどもと試す環境まつり」への参加

東京都中央区環境保全ネットワークが主催する「こどもと試す環境まつり」が中央区豊海小学校で開催され、当協議会は初めて出展しました。当日会場には約700名の来場者があり、PETボトルのリサイクルに関するクイズなど積極的にご参加いただき、興味を持っていただきました。



中央区「こどもと試す環境まつり」の模様
(2024年10月5日)

「エコプロ2024」への出展

2024年12月4～6日、東京ビッグサイトで開催された「エコプロ2024」に3R推進団体連絡会の八団体の一員として出展しました。展示会には3日間で延べ約6万3千人が来場し、PETボトルリサイクルの啓発活動を行いました。



「エコプロ2024」の模様(2024年12月4～6日)

広報誌「RING」の発行

2025年6月発行のVol.43では、「『清涼飲料用ペットボトル容器』の設計認定基準」、「大阪での事業系ボトルtoボトルへの取り組み」の特集をはじめ、資源循環型社会形成活動を行っている自治体として旭川市と岐阜市への取材、会員企業紹介としてPETボトルラベルにおいてトップクラスのシェアを持つグンゼ株式会社の守山工場で取り組んでいる、PET樹脂のラベルtoラベル等、さまざまな活動を紹介しました。



「RING」Vol.43

(4) 3R推進団体連絡会との連携

自主行動計画フォローアップ報告・記者説明会

3R推進団体連絡会（容器包装8素材で構成）は、容器包装3Rのための自主行動計画（2021～2025年度）の進捗状況について、2024年12月17日に経団連会館においてフォローアップ報告を行いました。

第19回容器包装3R推進フォーラム

「容器包装3Rフォーラム」は、自治体・市民・事業者などのさまざまな主体が連携して容器包装3Rを推進する場づくりを目



フォーラムの様子

的として2006年から開催しています。2024年度は会場およびオンラインでの参加に加えて、後日の録画配信と多数の方に出席いただきました。

容器包装3R交流セミナー

市民、NPO団体、国、都道府県、市町村の行政機関、事業者など多様なステークホルダーが一堂に会して議論をする場として、「容器包装交流セミナー」を定期的に開催しています。2024年度は、高松市（7月）、岐阜市（11月）、前橋市（2月）にて、貴重な意見交換を行うことができました。



交流セミナーの様子